消費者安全調査委員会からの

一葉（いちよう）

第23号

スキー場のベルトコンベア式移動設備の降り口に注意

子どもの衣服や腕が巻き込まれ、死亡に至る重大事故が発生しています

スキー場に設置された「スノーエスカレーター」などと呼ばれるベルトコンベア式の移動設備で、子どもの死亡事故が発生しています。

この設備は、スキー場の初心者・子どもエリア、駐車場とゲレンデとの間などに設置され、ベルトの上に立って雪上を移動する際に利用されています（図１）。ベルトが降り口で機械内部に引き込まれる構造です（図２）。事故は、降り口で衣服や腕が巻き込まれる形で発生しました。

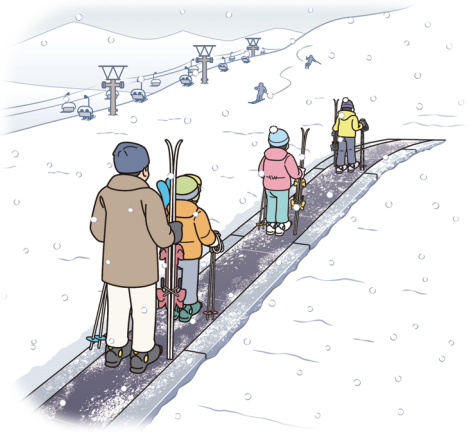


図１　利用イメージ

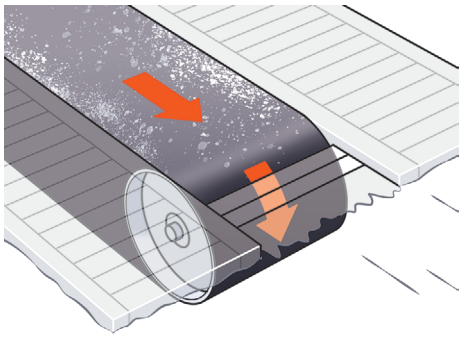


図２　構造

■ 事故事例１（2025年12月28日）

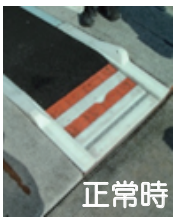
５歳児が、降り口で転倒し、開いた安全蓋の奥にあるベルトとブラシの隙間に右前腕部を巻き込まれた。

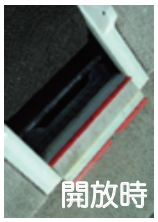
仰向けの状態で巻き込まれていた。右前腕部の解放には設備の破壊を要し、解放まで事故発生時から45分～50分程度要した。

病院へ搬送された後、死亡が確認された。死因は窒息死と公表されている。



利用状況





同種設備の降り口（安全蓋）

■ 事故事例２（2025年２月３日）

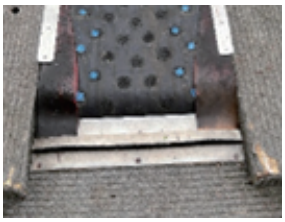
10歳児が、降り口で、ベルトに衣服のフードを巻き込まれ、首が絞まり、一時意識不明となった。

仰向けに寝転んだ状態で巻き込まれており、救助のためフードをハサミで切断した。

人工呼吸、心臓マッサージが実施され、その後、意識を取り戻した。



利用状況



事故が発生した降り口

事故は、転倒・座り込み・寝転びなどにより、衣服や腕が降り口の巻き込み部に接近して発生すると考えられます（図３）。死亡等の重大事故につながるおそれがあり、大変危険です。

イメージ



フロー

① 降り口までに姿勢を崩す
転倒・座り込み・寝転び

② 巻き込み部に接近
衣服や腕が巻き込み部へ

③ 巻き込み
衣服や腕が巻き込まれる

図３　事故発生の流れ

調査の過程で、設備を自動で停止する装置等が正常に作動していても、利用者の衣服が降り口のベルトに巻き込まれた際、巻き込みが継続する設備が確認されました。安全装置を無効化していた設備も確認されました。事故事例はいずれも、手動で停止するまで巻き込みは止まらず、取扱説明書において求められていた監視員は配置されていませんでした。

また、多くの設備は、衣服等が巻き込まれた際、巻き込まれた衣服の断裁、設備の分解や解体等を行わなければ、直ちに救助することが困難である場合があることも分かりました。

事故の防止に向けた、法令・日本の事業者向けガイドライン等は確認できていません。

引き続き調査を行うとともに、現時点で考えられる当面の事故防止策を示します。

スキー場のベルトコンベア式移動設備の事故を防止するために

降り口で子どもの死亡事故が発生しています

転倒などにより、衣服や腕がベルト巻き込み部に近づくと、機械に巻き込まれ、直ちに救助が困難な状態となります。死亡事故も発生しており大変危険です。

スキー場関係者の皆様へ

取扱説明書を今一度確認し、記載内容を守ってください。

（運行前）準備

- 取扱説明書に従って監視員を配置する。
- 停止装置（自動・手動）の作動確認をする。
- 緊急時の救助手順・役割を確認し、機材を準備する。
- 注意事項（座らない・寝転ばない等）を示す。

（運行中）監視



- 監視員は、服装や姿勢（転倒・座り込み・寝転び）を監視する。

（異常時）停止



- 監視員は、利用者転倒等の異常時、設備を直ちに停止する。

（緊急時）救助



- 万一、巻き込みが発生した場合は直ちに救助する。

利用者・保護者の皆様へ

機械に巻き込まれないために、立った姿勢で利用してください。
マフラー、服から伸びているひもなどは巻き込まれやすく危険です。
保護者の皆様も、子どもが巻き込まれないよう、服装や姿勢に注意してください。
（子どもが座ったり寝転んだりしないよう見ていてください。）